

# 再評価対象事業

農山漁村地域整備交付金地域水産物供給基盤整備事業

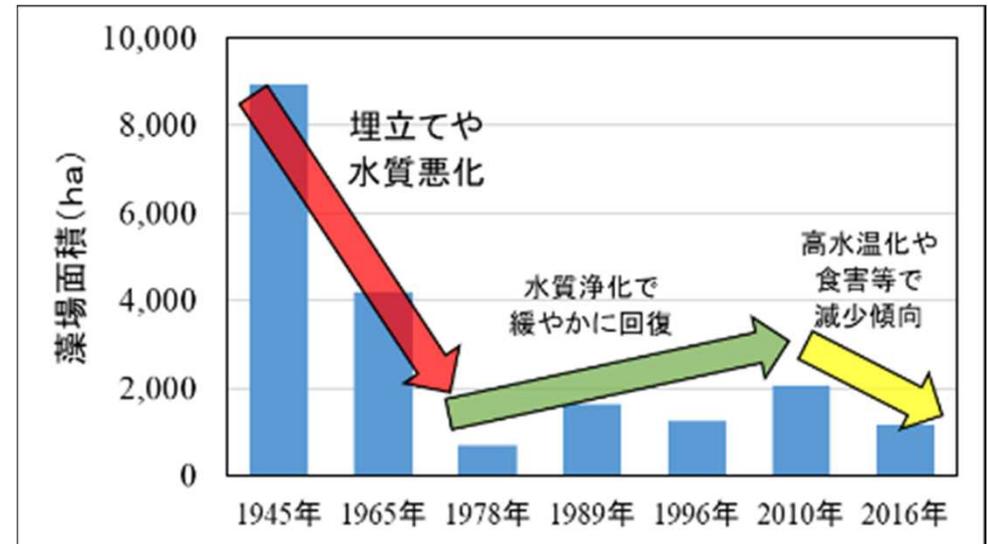
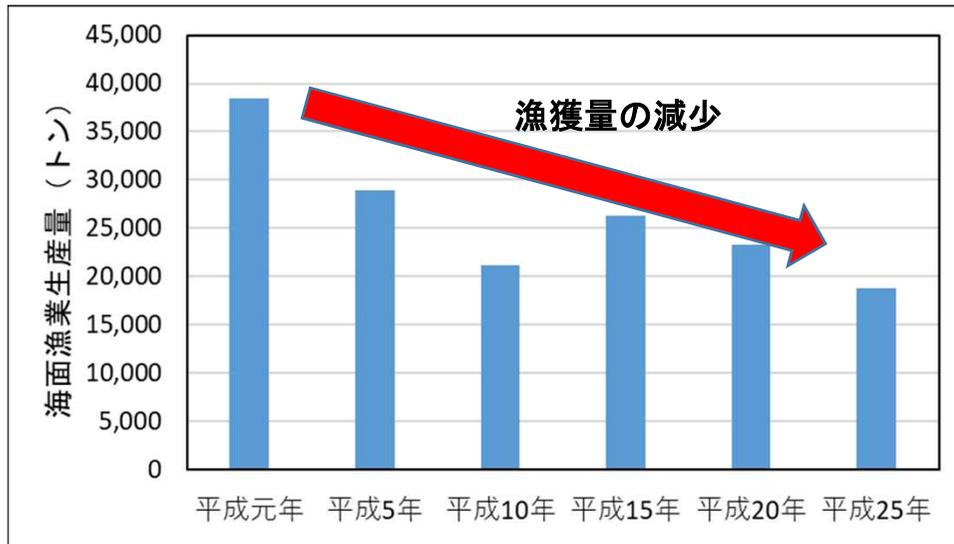
## 香川県塩飽海域における 水域環境保全と水産資源の 維持・増大のための漁場整備計画

農政水産部 水産課

# 1. 農山漁村地域整備計画の概要

計画名：香川県塩飽海域における水域環境保全と水産資源の維持・増大のための  
漁場整備計画

課題：瀬戸内海的环境変化(高水温化・貧栄養化等)により、香川県海域の漁獲量が  
減少し、魚介類の産卵場、育成場等の機能を有する藻場も減少している。



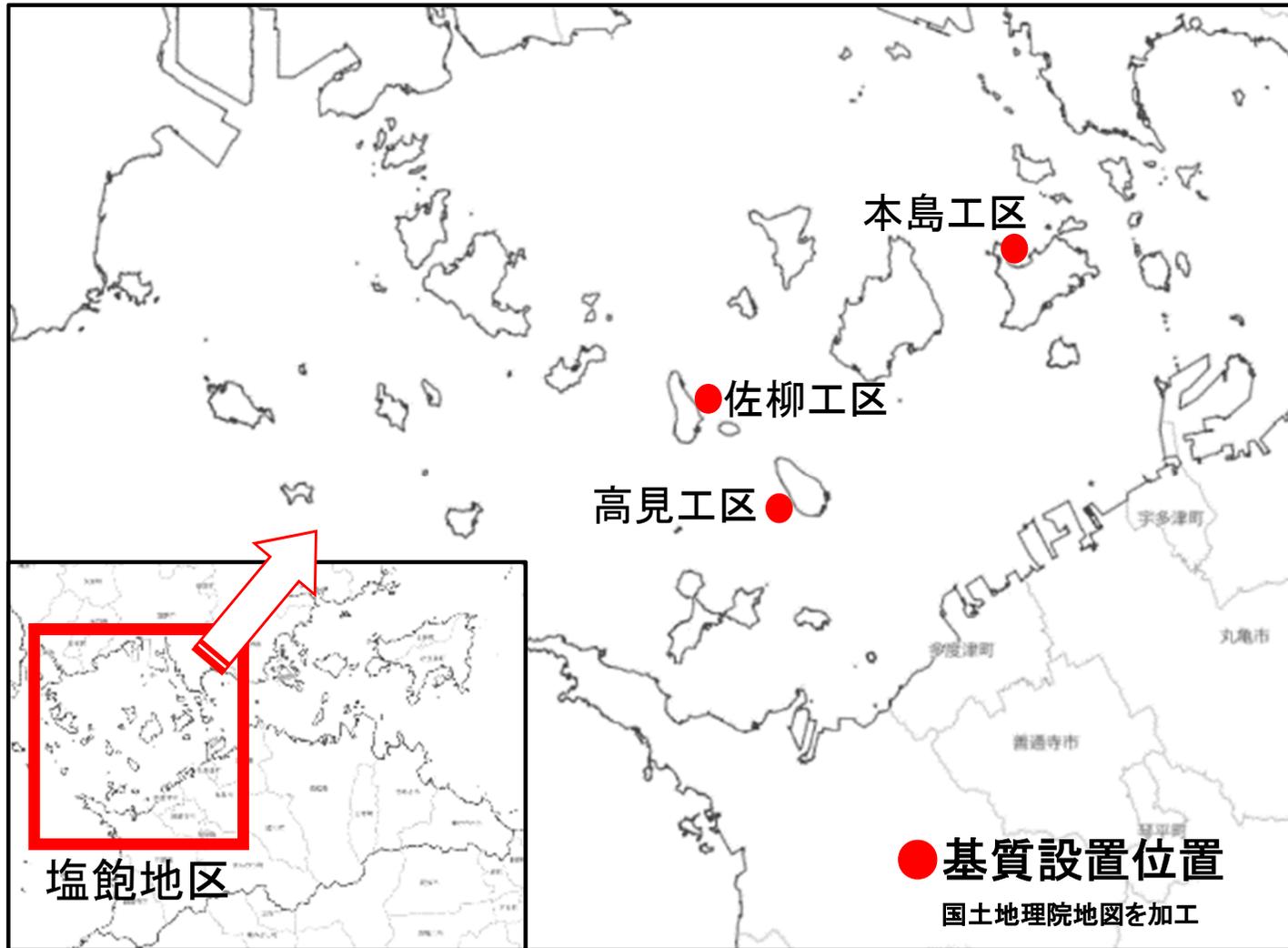
整備方針：水産資源の回復や海域の生産性向上を図るため、着定基質(魚礁・投石礁)を  
海底に設置することにより、魚介類の産卵場、幼稚魚の育成場、餌場など資源  
生産の場としての機能を有する増殖場(藻場:ガラモ)を4.7ha整備し、対象生物  
(クロダイ、カサゴ、メバル)を57トン増加させる。

計画期間：平成25年度～令和7年度(13年間)

(当初：平成25年度～平成29年度(5年間)、変更：平成25年度～令和2年度(8年間))

事業費：480百万円(当初：378百万円)

## 2. 整備位置図及び着定基質の種類



シェルナース礁



シーマークリーフ礁

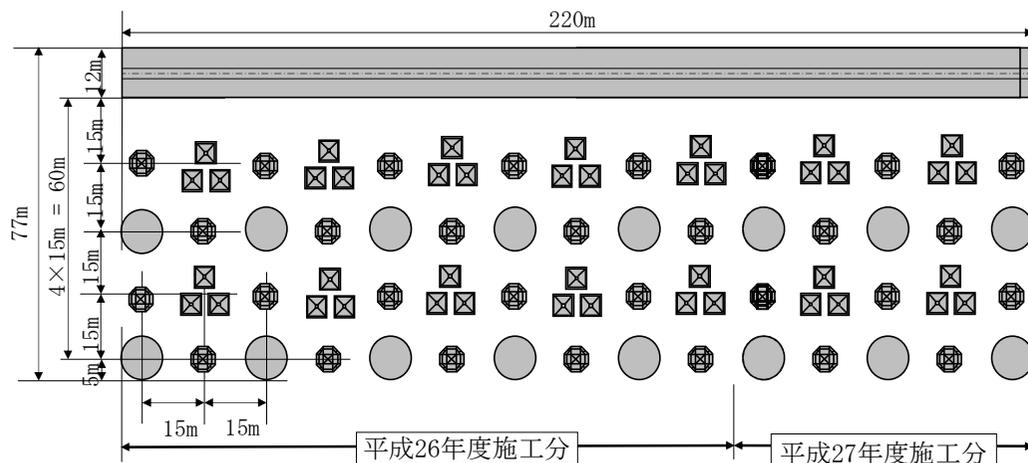


投石礁・投石マウンド礁

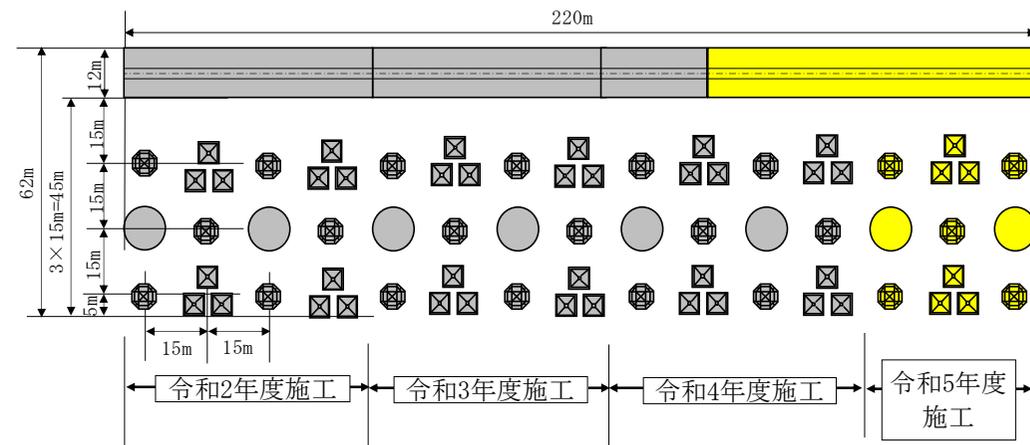
整備条件 ①水深:5~10m、②底質:砂泥質  
③傾斜:緩やか、④その他:船舶の  
航行、漁業操業に支障がない。

# 3. 着定基質の配置及び進捗状況

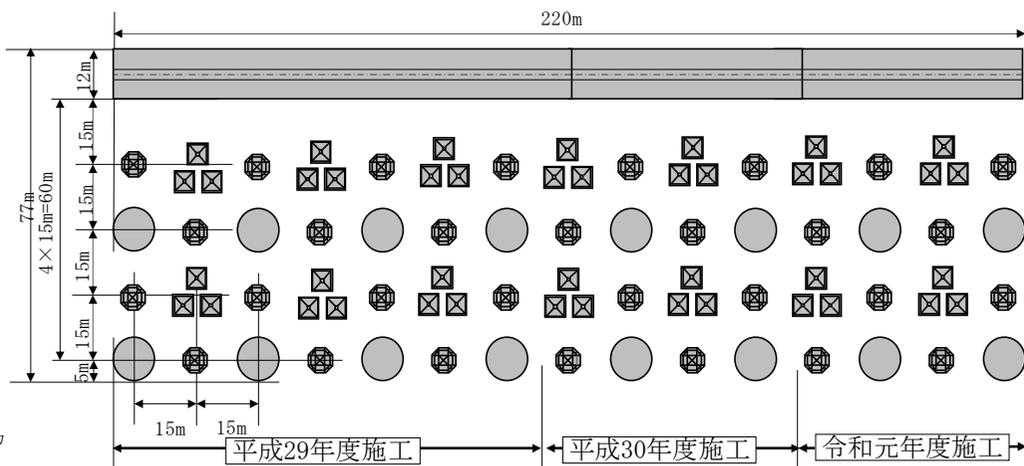
①高見工区(平成27年度完了)



③本島工区(令和5年度完了予定)



②佐柳工区(令和元年度完了)



凡例	藻礁の種類	高見工区	佐柳工区	本島工区
	シェルナース礁	42基	42基	42基
	シーマークリーフ礁	30基	30基	23基
	投石マウンド礁	16か所 838m <sup>3</sup>	16か所 838m <sup>3</sup>	8か所 419m <sup>3</sup>
	投石礁	3,080m <sup>3</sup>	3,080m <sup>3</sup>	3,080m <sup>3</sup>

進捗率: 93% (令和4年度末事業費ベース: 448百万円/480百万円)

## 4. モニタリング調査結果 ①高見工区

調査時期:平成29年7月、10月、平成30年2月

調査内容:潜水目視調査(海藻類、魚介類)、漁獲調査(建網)、餌料生物量



シーマークリーフ礁(7月)



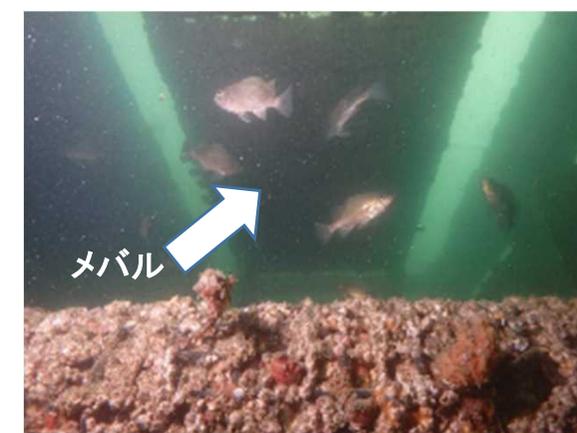
シェルナース礁(2月)



シェルナース礁(10月)



シーマークリーフ礁(10月)



シェルナース礁(10月)



投石マウンド礁(2月)

### 効果の算定

対象魚種の増加重量(餌料生物量から推定)

現存餌料生物量①:9,519kg(平均値)

餌料生物増加量②:190kg/日(①×0.02)

魚類の増加重量③:23,452kg/年

(②×365日×魚類増加係数)

うちクロダイ増加重量=915kg/年(③×占有率)

うちメバル増加重量=9,456kg/年(③×占有率)

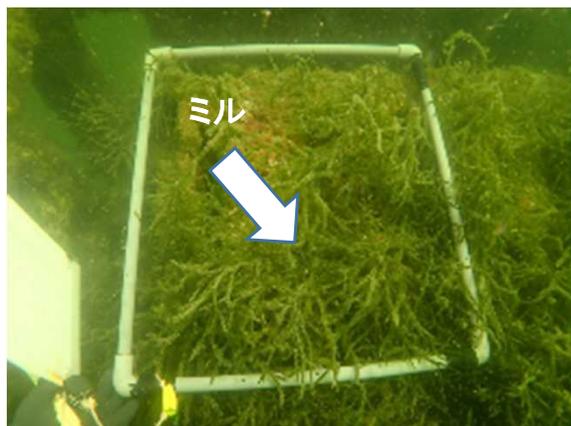
うちカサゴ増加重量=6,304kg/年(③×占有率)

対象種の合計=16.6トン

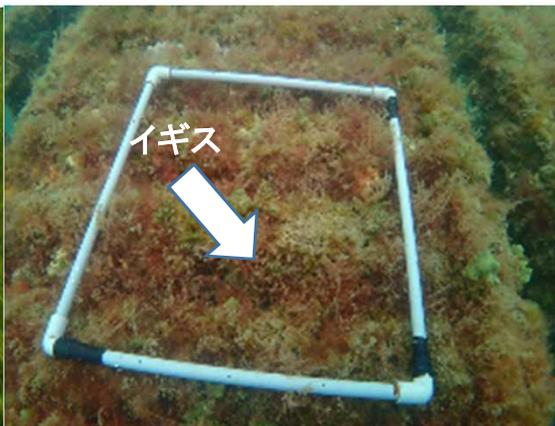
## 4. モニタリング調査結果 ②佐柳工区

調査時期: 令和3年7月、10月、令和4年2月

調査内容: 潜水目視調査(海藻類、魚介類)、漁獲調査(建網)、餌料生物量



シーマークリーフ礁(7月)



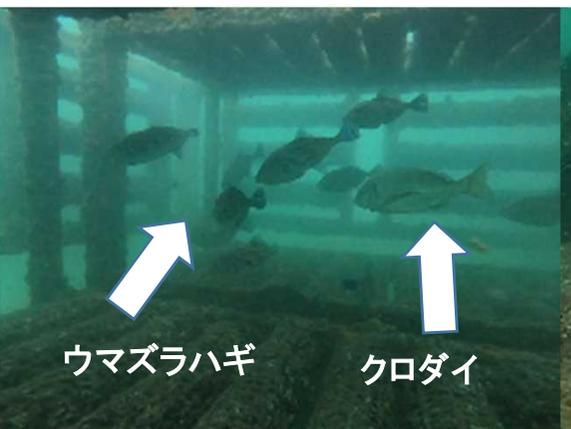
シェルナース礁(2月)



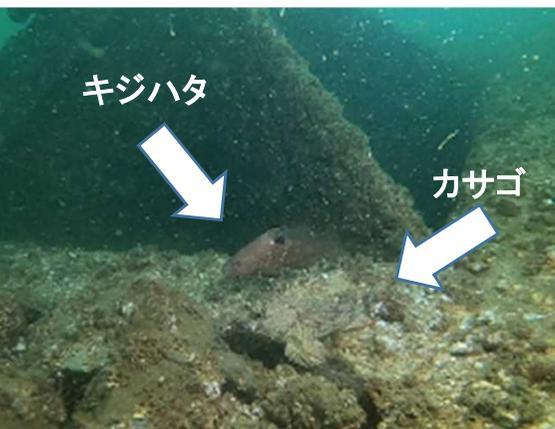
シェルナース礁(7月)



投石礁(10月)



シェルナース礁(10月)



シーマークリーフ礁(10月)

### 効果の算定

対象魚種の増加重量(餌料生物量から推定)

現存餌料生物量①: 9,427kg(平均値)

餌料生物増加量②: 189kg/日(①×0.02)

魚類の増加重量③: 23,226kg/年

(②×365日×魚類増加係数)

うちクロダイ増加重量=905kg/年(③×占有率)

うちメバル増加重量=9,335kg/年(③×占有率)

うちカサゴ増加重量=6,243kg/年(③×占有率)

対象種の合計=16.5トン

## 5. 再評価の視点及び対策方針（案）

### ①事業の必要性等に関する視点

#### 1) 漁業の状況その他の社会経済情勢等の変化

- 漁場環境の変化(高水温化・貧栄養化)等の影響による漁業資源量の減少に加え、コロナ禍の影響による消費量及び魚価の低迷、さらに漁業者の高齢化・後継者不足等が相まって、漁業生産量は減少が続いている。
- 藻場は、アイゴやムラサキウニ等の植食性生物が増大しており、食害の影響によりガラモ等大型海藻類の藻場面積は減少傾向となっている。
- 水産資源の回復や海域の生産性向上を図るため、資源管理や栽培漁業との連携を図りながら、増殖場の整備を推進する必要がある。

#### 2) 進捗状況

93%(令和4年度末事業費ベース:448百万円/480百万円)

### ②事業の進捗の見込みの視点

- 本事業は、令和5年度で工事が完了見込であり、令和7年度に計画しているモニタリング調査を令和6年度に繰り上げ、早期に完了としたい。



対応方針「継続」